

第1章 計画の策定について

1 計画策定の背景・目的等

(1) スポーツの定義・効果

- ① 本計画におけるスポーツの位置づけ
競技だけでなく、健康維持や仲間との交流のための軽い運動、体を動かすレクリエーション活動も含むもの。

【健康維持のための運動、レクリエーション活動の例】

ウォーキング・散歩、自転車・サイクリング、登山・ハイキング、キャンプ・海水浴、釣りなど

② スポーツの効果

楽しさ・喜び

体力の保持増進

健康寿命の延伸

個人の心身への好影響に加え、地域・社会の課題解決に寄与するもの

多様性・包摂性の促進、共生社会の実現

地域・経済の活性化

(2) 計画策定の背景

○国のスポーツ基本計画や札幌市スポーツ推進計画の策定経過等

(3) 計画策定の目的

○市民の健康の維持、地域コミュニティの再生、活力の創造等

(4) 計画の位置づけ

○スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」

○まちづくり戦略ビジョンの個別計画

(5) 計画期間

○R5(2023)からR14(2032)までの10年間

○中間年の5年目(R10)頃を目途に、適宜、計画の見直しを実施

第2章 計画の策定にあたって

1 国の動向

○R4.3に第3期計画(計画期間 R4(2022)～R8(2026))を策定、公表。

【第3期計画の概要】

- 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展
- スポーツの価値を高めるための新たな「3つの視点」
 - スポーツを「つくる／はぐくむ」
 - スポーツで「あつまり、ともに、つながる」
 - スポーツに「誰もがアクセスできる」

◆今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

①	多様な主体におけるスポーツの機会創出	⑦	スポーツによる地方創生、まちづくり
②	スポーツ界におけるDXの推進	⑧	スポーツを通じた共生社会の実現
③	国際競技力の向上	⑨	スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
④	スポーツの国際交流・協力	⑩	スポーツ推進のためのハード・ソフト・人材
⑤	スポーツによる健康増進	⑪	スポーツを実施する者の安全・安心の確保
⑥	スポーツの成長産業化	⑫	スポーツ・インテグリティの確保

・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』

・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」を更に高めるべく、施策を展開

2 社会情勢の変化

- 高齢化の進行:2040年代には高齢者人口が全体の4割に到達。札幌市民の健康寿命は全国平均以下。
- 価値観等の多様化:価値観等が多様化する中で、共生社会の実現の必要性がより高まっている。
- 新型コロナ:スポーツ活動が制限され、生活や社会活動に悪影響が生じたことでスポーツの価値を再認識

3 札幌市のスポーツ環境の変化

- 第2次まちづくり戦略ビジョンの策定 ※最終的には戦略編・APの内容も反映した記載を実施

目指すべき都市像	「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ		
まちづくりの重要概念	ユニバーサル(共生)	ウェルネス(健康)	スマート(快適・先端)

【まちづくりの基本目標(スポーツ関連部分)】

⑬世界屈指のウインタースポーツシティ

⑭四季を通じて、誰もがスポーツを楽しむことができるまち

- 2030 冬季オリパラ招致 ※最終的には策定段階の招致・開催決定状況を反映した記載を実施

札幌市が開催するオリパラについては、「第2次まちづくり戦略ビジョン」に定めるまちづくりの方向性と整合し、多くの分野で札幌市の目指すまちづくりを推進・加速するきっかけとなるものと位置付け。オリパラを通して、「100年後の未来を見据えたまちづくり」を進めるためにも、スポーツを含む多くの分野において、オリパラと連動した取組を行い、オリパラのレガシーを着実に形にしていけることが必要。

- 国際的スポーツイベントの開催

ラグビー・ワールドカップや東京オリパラ等により、市民のスポーツへの関心の高まりに加え、開催ノウハウが蓄積。

第3章 札幌市のスポーツの現状と課題

1 現計画(改定版)の概要

基本理念：～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～ スポーツ元気都市さっぽろ

目標1 スポーツの力で
「市民」が かがやく目標2 スポーツの力で
「さっぽろ」を かえる目標3 スポーツの力で
「世界」へ つながる

2 現計画(改定版)の達成状況等

(1) 成果指標

No	成果指標		H29 (当初値)	H30	R1	R2	R3 (直近値)	R4 (目標値)
1	スポーツ実施率	① 20歳以上・週1回以上	56.4%	54.2%	58.6%	54.9%	57.7%	65.0%
		② 障がい者・20歳以上・週1回以上	43.7%	51.6%	52.6%	54.1%	49.7%	50.0%
2	ウインタースポーツ実施率(18～49歳・年1回以上)		20.1%	21.0%	18.6%	20.5%	19.5%	25.0%
3	直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)		43.6%	39.8%	43.6%	20.0%	22.4%	50.0%
4	ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数(1月～3月)		175千人	162千人	116千人	—	—	98千人※

※新型コロナの影響を踏まえ、2020年度に下方修正

【表1：年代別スポーツ実施率】

年代	実施率(R3)
70歳以上	62.3%
60歳代	61.8%
50歳代	59.0%
40歳代	49.8%
30歳代	52.6%
20歳代	53.3%

(2) 成果指標に係る分析

1-① スポーツ実施

- 当初値から概ね横ばいで推移。直近(R3)の数値は57.7%。
- 年代別スポーツ実施率では、20～40歳代の実施率が低い(表1)。
- 種目別スポーツ実施率では、軽い運動・一人でも気軽にできる種目の実施率が高い(表2)。

【表2：種目別スポーツ実施率(年1回以上)】

種目	実施率(R3)
ウォーキング・散歩	62.4%
トレーニング	27.5%
体操(エアロビクス・ラジオ体操等を含む)	22.8%
自転車・サイクリング	20.0%
ランニング(ジョギング・マラソン)	9.6%
行わなかった	15.7%

- 【傾向】○屋外での軽い運動・一人でも気軽にできる種目は、積雪がある冬期間には制限される
- 20～40歳代が中心であるビジネスパーソン(働く世代)や子育て世代の運動機会が不足

1-② スポーツ実施(障がい者)

- H30～R2は50%台で推移。R3も50%に近い水準で目標値を概ね達成しているが、横ばい傾向。

- 【傾向】○身近な障がい者スポーツの場や環境が不足

2 ウインタースポーツ実施

- H29以降、20%前後でほぼ横ばい。
- 年代別では、40歳代以下の実施率が高い(表3)

【表3：年代別ウインタースポーツ実施率】

年代	実施率(R1～3平均)
70歳以上	3.8%
60歳代	5.0%
50歳代	9.0%
40歳代	20.9%
30歳代	17.9%
20歳代	18.7%
18～19歳	21.9%

- 【傾向】○札幌のウインタースポーツ文化の継承や冬季オリパラの開催を見据える観点から、さらなる振興が必要
- ウインタースポーツ実施においては経済的負担や施設へのアクセスが悪いなどの阻害要因が顕在

3 直接スポーツ観戦

○R2以降はコロナの影響で約半減。

【傾向】 ○直接観戦しているスポーツがプロ野球、プロサッカー、マラソンなどに偏りが見られる

4 ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客

○R2以降は調査未実施のため、詳細不明。

【傾向】 ○コロナ禍における来札外国人観光客の目的、ニーズの変化が懸念される

第4章 (仮称)札幌市スポーツ推進計画(2023～2032)において踏まえる視点

1 第3期スポーツ基本計画からの視点(主なもの)

多様な主体におけるスポーツ機会の創出 スポーツによる健康増進 スポーツによる地方創生、まちづくり

スポーツを通じた共生社会の実現 スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

2 第2次まちづくり戦略ビジョンからの視点

○健康寿命の延伸等

- ・「人生100年時代の到来」を踏まえた、健康寿命の延伸の必要性
- ・市民個々人の経験等を生かす機会の充実等による、生涯現役として活躍できる場の充実
- ➡スポーツを通じて、これらの実現を図るため、気軽にスポーツ参加できる環境づくり等を推進が必要

○共生社会の実現

- ・多様性を尊重するとともに、双方向に支え合う「共生社会」の実現の必要性
- ➡スポーツを通じた共生社会の実現に向け、障がい者スポーツの普及促進や環境整備等の取組が必要

○地域・経済の活性化

- ・スポーツをきっかけとした国内外の観光客の来訪・交流を通して、地域や経済を活性化
- ➡スポーツツーリズムの推進やスポーツ大会の誘致・開催等の取組が必要

○ウィンタースポーツ振興

- ・2030冬季オリパラの招致・開催
- ・次期戦略ビジョンにおいても基本目標として「世界屈指のウィンタースポーツシティ」が掲げられている
- ・スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略が策定される等、札幌市として取組を推進している
- ➡すそ野拡大や環境整備等について、より一層の取組の強化が必要

3 冬季オリパラ ※最終的には策定段階の状況を反映した記載を実施

- 上記の第4章－2で挙げた項目は、冬季オリパラ開催にあたって重視する観点であり、方向性は整合。
 - オリパラの開催や開催に至るまでの様々な取組をもって、さっぽろの目指すまちづくりを加速。
 - 各計画事業について、オリパラとの連動を意識しながら、取組を推進。
 - なお、計画期間が冬季オリパラ前後の期間を包含することを踏まえ、それぞれの期間毎に取組内容を構築。
- ※オリパラ開催の趣旨や概要等についても、本計画内で改めて記載予定

第5章 (仮称)札幌市スポーツ推進計画(2023～2032)の方向性等

1 基本的な方向性

- 第3章での現状・課題の分析等、第4章に挙げた視点等を踏まえて、理念や目標を設定。
- 特に、冬季オリパラとの連動を意識し、開催までの機運醸成や開催後のレガシー効果の向上のために、具体の取組を展開。

2 基本理念・目標

●基本理念：スポーツのチカラでまちのミライを切り拓く ～ひとと、まちも、次のステージへ～

目標1	スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち
目標2	ひととひとがスポーツでつながる共生のまち
目標3	スポーツによる賑わいであふれているまち

3 成果指標と目標数値

項目	直近値	目標数値	備考
スポーツ実施率(20歳以上・週1回)	57.7%	今後検討	
スポーツ実施率(障がい者・20歳以上・週1回)	49.7%		
ウィンタースポーツ実施率(18～49歳・年1回)	19.5%		
直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)	22.4%		
スポーツ目的の来札観光客(道外・海外)	調査中		指標内容の修正
スマイルサポーターズ登録者数	1,234人		新規設定項目
強化指定選手に選出されるアスリートの育成数	8人		

第6章 目標達成に向けた方針・施策(案)

1 施策体系

2 各目標の方針・施策

(1) 方針 各目標を実現するための方針・施策を設定。

基本理念	スポーツのチカラでまちのミライを切り拓く ～ひとと、まちも、次のステージへ～																																														
目標	1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち	2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち	3 スポーツによるにぎわいであふれているまち																																												
成果指標	目標1 ◆ スポーツ実施率(20歳以上・週1回) ◆ ウィンタースポーツ実施率(18歳～49歳・年1回) ◆ 強化指定選手に選出されたアスリートの育成数(年代別含む)	目標2 ◆ スポーツ実施率(障がい者・20歳以上・週1回) ◆ スマイルサポーターズ登録者数(スポーツボランティア)	目標3 ◆ 直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上) ◆ スポーツ目的の来札観光客数(道外・海外)																																												
方針	<table><tr><th>内容</th><th colspan="3">関連目標</th></tr><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr><tr><td>①誰もがスポーツに参加できる機会の創出</td><td>●</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>②多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実</td><td>●</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>③世界で活躍するトップアスリートの輩出</td><td>●</td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>④障がい者スポーツの推進</td><td>●</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>⑤スポーツを通じた交流機会の創出</td><td></td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>⑥スポーツをみる機会の充実</td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>⑦スポーツツーリズムの推進</td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>⑧誰もが身近にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>⑨冬季オリパラ招致・開催を通じたまちづくりの推進</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr></table>			内容	関連目標				1	2	3	①誰もがスポーツに参加できる機会の創出	●	●		②多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実	●	●		③世界で活躍するトップアスリートの輩出	●		●	④障がい者スポーツの推進	●	●		⑤スポーツを通じた交流機会の創出		●	●	⑥スポーツをみる機会の充実			●	⑦スポーツツーリズムの推進			●	⑧誰もが身近にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実	●	●	●	⑨冬季オリパラ招致・開催を通じたまちづくりの推進	●	●	●
内容	関連目標																																														
	1	2	3																																												
①誰もがスポーツに参加できる機会の創出	●	●																																													
②多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実	●	●																																													
③世界で活躍するトップアスリートの輩出	●		●																																												
④障がい者スポーツの推進	●	●																																													
⑤スポーツを通じた交流機会の創出		●	●																																												
⑥スポーツをみる機会の充実			●																																												
⑦スポーツツーリズムの推進			●																																												
⑧誰もが身近にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実	●	●	●																																												
⑨冬季オリパラ招致・開催を通じたまちづくりの推進	●	●	●																																												

第7章 計画推進のための取組

1 推進体制

○庁内体制に加え、市民や関係団体とも協働した体制を構築

2 将来を見据えた施設の在り方や配置

○配置活用実施方針を踏まえた取組

3 計画の進行管理

○札幌市スポーツ推進審議会での報告を含む計画進行管理体制を構築